

3 それぞれの留意点

■核物質の場合

- 閃光や火球が発生した場合には、失明するおそれがあるので見ないでください。
- すばやく遮蔽物の陰に身を隠しましょう。近隣に建物があればその中へ避難しましょう。地下施設やコンクリート造りの建物であればより安全です。
- 上着を頭からかぶり、口と鼻をハンカチで覆うなどにより、皮膚の露出をなるべく少なくしながら、爆発地点からなるべく遠く離れましょう。その際、風下を避けて風向きとなるべく垂直方向に避難しましょう。



- 屋内に地下施設があれば地下へ避難しましょう。
- 放射性物質を散布することにより放射能汚染を引き起こすことを意図した爆弾(ダーティボム)の爆発の場合、爆発が起こった建物などからできる限り速やかに離れましょう。
- 爆発において特有の特徴が無く、放射性物質の存在が判明するまでに時間がかかることなどから、たとえ外傷がない場合でも、行政機関の指示などにしたがって医師の診断を受けましょう。

■生物剤の場合

- 身近に感染した可能性のある人がいる際には、その人が使用した家庭用品などに触れないようにし、頻繁に石けんで手を洗いましょう。感染した可能性のある人も自らマスクをすることが大切です。
- 米国で発生した炭そ菌事件のように、不審な郵便物が送られてきた場合には、郵便物を振ったり、匂いをかいだり、中身を開けたりせずに、可能であればビニール袋で包み、すぐに警察などに通報しましょう。
- もし開けてしまって不審な物質がこぼれ出たような場合には、掃除はせずに不審な物質を直ちに何かで覆い、その部屋を離れて汚染された衣服をできるだけ早く脱ぎ、ビニール袋に入れ密閉しましょう。その後、手を水と石けんで洗い流してすぐに警察へ通報しましょう。

■化学剤の場合

- 2階建て以上の建物であれば、なるべく上の階へ避難しましょう。
- 汚染された服、腕時計、コンタクトレンズなどは速やかに処分する必要がありますが、汚染された衣服をうかつに脱ぐと、露出している皮膚に衣服の汚染された部分が触れるおそれがあります。特に頭からかぶる服を着ている場合には、はさみを使用して切り裂いてから、ビニール袋に入れ密閉しましょう。その後、水と石けんで手、顔、体をよく洗いましょう。



- 化学剤傷病者への治療は一刻を争います。あやしいと感じたらすぐに周囲に知らせる、速やかに警察や消防に通報するといった迅速な対応をとった方が、その後の対処も早くなり、救命率の向上につながります。